



写真：1年1組 古川 真輝「沈む空、浮かぶ山」

1. 巻頭言「私の読書歴と読書術」	校長 荒木 信夫	2
2. 文芸コンクール入賞結果《詫間》		3
3. 講評		3
4. 入賞作品紹介		4
エッセイ	【グランプリ】	情報工学科3年 松本 悠臣
	【優秀賞】	1年2組 森 想来
読書体験記	【最優秀賞】	1年3組 山田 幹太
	【優秀賞】	1年3組 松原 大悟
小説	【最優秀賞】	1年2組 中本 怜祐
	【優秀賞】	情報工学科3年 中田 理貴
短歌	【最優秀賞】	1年1組 前川 公平
	【優秀賞】	1年3組 大西 翔太
俳句	【最優秀賞】	1年1組 藤本 尚慧
	【優秀賞】	1年3組 中妻 太希
写真・イラスト	【最優秀賞】	1年1組 古川 真輝
	【優秀賞】	1年2組 水井孔士郎
5. 教員・学生による推薦図書 全19編（教員7編、学生12編）		9
6. 教員によるエッセイ	高松キャンパス建設環境工学科 松本 将之	12
	詫間キャンパス一般教育科 清水 一紘	13
	機械工学科4年 尾野 彰信	14
	情報工学科4年 田尾 恭脩	
7. 図書委員長より		
8. 図書館利用のすすめ		
9. 専攻科生より		15
10. ブックハンティング紹介		16
11. ビブリオバトル紹介		16
12. 図書館からのお知らせ		16

私の読書歴と読書術

校長

荒木 信夫



私が通っていた田舎の小学校には、もちろん図書室はあった。しかし、当時の私はほとんど本を読まなかった。ただ、夏休みには「読書感想文の課題図書」という仕組みがあり、4年生から宿題として課されていた。それが不思議なことに、今でもその本の題名や物語の内容をおぼろげながら覚えている。4年生は『うりんこの山』、5年生は『ゲンのいた谷』、6年生は『魔神の海』。中学生になると部活動に明け暮れ、本を読んだ記憶はほとんどない。

高専生になると夏休みは長く、自転車旅行や山登り、ヒッチハイクをするようになった。その影響もあって、小田実の『なんでも見てやろう』、植村直己の『青春を山に賭けて』、ハイエルダールの『コンチキ号の冒険』、本多勝一の『カナダ・エスキモー』、堀江謙一の『太平洋ひとりぼっち』など、海外放浪や世界を股にかけた冒険・紀行の本を片っ端から読みあさった。高専生活の終わりが見えてくる頃になると、冒険譚でも、より人生の生き様が描かれた本を手にとるようになった。『竜馬がゆく』『坂の上の雲』『天平の薨』『蒼き狼』『沈黙』——そんな作品に自分の将来を重ねながら、若い魂を熱くしていた。

高専教員になってからは、専門書や論文を読まなければならなくなったが、忙しく

なればなるほど小説が読みたくなることに気づいた。現実逃避なのか、あるいはストレス解消なのかもしれない。そうすると、書評、受賞作や誰かが「面白かった」と紹介してくれた本を手に入れ、いつも枕元に積んでおくようになった。待ち時間や移動の長い出張にも必ず持参し、小説の世界に浸っていた。出張に出向く新幹線の中で『鉄道員』や『壬生義士伝』を読んでいた時に涙が溢れて困った経験もある。

「どうしてそんなに読書が好きなのか」と尋ねられることがある。特に家族からは、幾度となくそんな質問が飛んできた。家で仕事を頼まれても、読んでいる小説が佳境に入ると何も手につかなくなるからだ。小説を読んでいると、その場面が脳内に鮮やかに描き出される。極彩色で、サラウンドサウンドのハリウッド映画並みだ。文字を目で追っているだけなのに、大迫力の映像があたかも眼前に広がる。これは読者の想像力のなせる技だが、同じ文章を読んでも、脳内に映し出される映像は人それぞれ異なる。その人がこれまでに経験してきたことが、想像の素材になっているからだ。

映画では小説が映像化されることが多いが、私は面白そうな映画ほど、必ず鑑賞前に原作を読むことにしている。映画を先に見てしまうと、出演俳優の顔や映画の場面が先に立ち、自分の想像力で情景を描けなくなってしまふからだ。読書を重ねると想像力が鍛えられ、想像力が豊かになると、さらに読書が好きになる。執筆者が考え、作り上げた物語を、何処にいながらも追体験できるし、自分の生き方のヒントにもなりうる。こんなに楽しくて役に立つことを、やらない手はない。



文芸コンクール 入賞結果発表〈詫間キャンパス〉

第10回図書館文芸コンクール入賞者表彰式を、12月3日（水）に実施しました。入賞者は以下のとおりです。



【詫間キャンパス】

エッセイ

グランプリ	情報工学科3年	松本 悠臣
優秀賞	1年2組	森 想来

短歌

最優秀賞	1年1組	前川 公平
優秀賞	1年3組	大西 翔太

読書体験記

最優秀賞	1年3組	山田 幹太
優秀賞	1年3組	松原 大悟

俳句

最優秀賞	1年1組	藤本 尚慧
優秀賞	1年3組	中妻 太希

小説

最優秀賞	1年2組	中本 怜祐
優秀賞	情報工学科3年	中田 理貴

写真・イラスト

最優秀賞	1年1組	古川 真輝
優秀賞	1年2組	水井孔士郎

講 評

詫間キャンパス 一般教育科 国語科

今年度は、前年度までのように2年生以上の学生に対しての課題ではなく、完全任意の応募形式に変更されたため、昨年に比べて全体の応募数が減少しました。その中で、特に1年生以外からの応募は貴重であり、大変うれしく思っています。

美しさや普段考えていることなどを自分の力で「表現する」行為は、自分自身の心の豊かさと感受性を高めるために非常に重要なものです。受賞されたみなさんは、他の人より秀でた表現力を持っているからこそ選ばれたのであり、その力を誇りに思うべきです。どうぞ、その力を、今後も磨き続けてください。

さて、グランプリにも選ばれた、エッセイ部門における松本君の作品ですが、ある意味で理屈っぽいですが、普段から様々なことを考え疑問に思っている作者の特徴がよく表れており、非常によくできていて面白いものでした。森さんの作品は松本君の作品とは対照的に、素直な文章が爽やかでその部分が高く評価されました。

今回から新設されたのは読書体験記部門です。本を読んだ感想だけでなく、それによって自分がどう変わったか、日常生活や自身の考え方にどのように影響したのかが問われるものです。受賞した2名は、この点がよく書けていました。本の選択が良かったという側面もありますが、そうした視点に目を向けて書こうとしたことそのものが重要だと評価されました。

小説部門の中本君の作品は、内容的には最も短いものでしたが、その長さの中に自分のアイデアを効果的に盛り込めていた点が評価されました。一方、中田君の作品は長編であり、普段から書き慣れ

ていることがうかがえます。しかし、長いだけに読者を引っ張り続けるアイデアを維持させることが難しく、途中で結論が見えてしまった点が課題として指摘されました。小説的な「ひねり」を加え、最終場面で読者を「あれ？」と思わせる工夫があれば、さらに良い作品になると思います。

短歌部門の前川君の作品は、きれいな言葉を選んで使っており、その言葉のチョイスが高く評価されました。1年生でこれだけの言葉を選べるのは素晴らしいと称賛されました。大西君の作品は、言葉の選択というより、その内容の「面白さ」が評価されました。普段使っている表現や思いを素直に表すことも短歌の一つの形であり、今後も精進を続けて欲しいと思います。

俳句部門ですが、俳句は特に、アイデア発勝負の側面もあります。藤本君の作品は、「かき氷」を直接的な言

葉で表現せず、「溶け氷」という言葉を使ったことで、読者に「おっ」と思わせる工夫が評価されました。もしも、「かき氷」と書いていたら選ばれていなかったでしょう。中妻君の作品は「翠玉の 水面を渡る」という表現で、緑や水面のイメージがよく捉えられており、非常によくできていると評価されました。

短歌・俳句の今年のテーマは「涼」でしたが、応募作の大半が「外は暑いが部屋のエアコンは涼しい」という内容でしたから、それらは全て選考から外されました。

受賞者たちは、ありきたりな表現に頼らず、テーマを自分なりに解釈し、うまく作品に落とし込んでいる点が評価されました。

受賞者のみなさんには、今後も様々なものを書いたり、表現したりする活動を継続して、その力をさらに磨いていかれることを期待します。

入賞作品紹介

〈詫間キャンパス エッセイ〉

グランプリ

横文字は言語世界を豊かにするか

情報工学科3年 松本 悠臣

初めに

私は日本語が好きだ。洗練された表記体系、豊かな語彙、数えきれないほどの文学。これら一つ一つが日本語という言語を形成している。ところがそんな政治家や評論家の口から聞きなじみのない横文字が聞こえる。「スマートシティ」「ソーシャルファーム」…。SNSには日本語を廃止して英語を公用語にするべきだとの過激な意見もある。いや、そんな遠い世界だけではない。私たちの日々にとって、「スマホ」「エビデンス」、新しい言葉は次々と入ってきているではないか。いつか日本語のすべての単語が置き換わって、全く別の言葉になってしまうのではないか。私たちの心根に根付く外部の権威への安易な追従が私たちの誇りである日本語すら飲み込んでしまうのではないか…そんな恐怖が漠然と、しかし確かにこの胸に去来するのである。

ある人が言った。人は言葉により世界を形作っていると¹⁾。言葉が世界を支えている以上、言葉のありようが世界のありようを定めるはずだ。「世界を支える」とはおおごとである。なぜなら、人々の使う言葉が「悪い方向」に転べば世界もつられて「悪い方」へと向かってしまうから。ならばこそ、個々

人が言葉と誠実に向き合い、その背景や繊細な含意をくみ取っていくべきなのである。ここではそんな現代日本人の言葉の向き合い方について考えてみたい。

1) どうやらソシュールやヴィトゲンシュタインらがきちんと論じているらしい。詳しいことは知らないのであまり深入りはしない。

横文字は言語世界を豊かにするか

動画で、本で、SNSで時として見る横文字。日本社会に彗星のごとく現れ、動画やSNS等で散見される十分な説明のないまま用いられる横文字を見て、面食らった読者も少なくないだろう。いったい日本人の何割がこれらの用語を正しく理解し、正しく発しているだろうか。この「よくわからないのに使われる」ことこそ、思考の武器である言葉が、ただ「流行の記号」として使われている何よりの証左である。一体いつから我々は言葉と真剣に向き合わず、浅慮のままに横文字を使うようになったのだろうか。

さる明治時代、日本は西洋文明との本格的邂逅を経、その文化を取り込もうと心血を注いだ。その代表的な動きが訳語の造語である。特に西周や福沢諭吉の功績は誰もが知るところだろう。philosophyに対する哲学など特に有名だ。ここで重要なのは対象となる概念を適切に理解し、最も適切な漢字を当てはめるという仕事を怠らなかったことにある²⁾。これにより、ただの西洋の猿真似にとどまらず、概念の知的消化という大きな役割を果たすこととなった。一方で現代の知識人はこの「訳す努力」を放棄して、安易に音写で済ませている。それどころかこの知識人というものは、地位を鼻にかけ取って英単語を転記することで英語を解けると誇示している。こうした行いは、言葉の意味や背景の断絶を招き、話者同士の間に亀裂を生じさせる。

以上の議論から、横文字の濫用が実態の上で日本語の語彙力を損ない、世界に対する受動的な姿勢を生んできたとわかる。この問題のただ一つの解決策、それは西や福沢を見習って訳語を作り、「思考の武器」を研ぐことである。訳語が社会に膾炙すれば、つまり社会全体がその訳語がそれを指すと合意できれば、世界が一つ鮮明になる。ある概念に名前が付けば、みな気軽にそれを参照することができる。

2) 漢字の「表意文字」という強みは、しばしば概念の理解の大きな助けとなることがある。Mathematicsはギリシャ語で「学んだこと、教訓、学問」を意味する「μάθημα」に由来する。多くの英語話者はギリシャ語を知らないし、解していたとしても何を意味するのかよく分からない。一方で、「数学」という訳語は「数に関する学問」という理解を読み手に即座に提供することができる。

反対意見？

ただ反対意見があるのも承知している。実際上代³⁾には語彙というか表記体系である漢字の借用が行われた。中世後期には南蛮からも借用がある。この流れの中に現代のカタカナ語を見れば、壮大な歴史の一部だと容認できるかもしれない。

しかし、現代の借用は過去の漢語借用のような知的消化を経ていない点で無為どころか有害であると言いつける。漢語借用は行政や仏教、思想の概念の輸入という背景のもと、文法の整備や文化の調整が伴っており、実際に日本に新たな概念を円滑に導入するのに大きな役割を果たした。一方で、現代の無秩序な音写は日本語側の土壌を考慮していないという決定的な差異がある。過去訳語を作り出したのとは対照的に、現代は概念の定着という仕事を放棄し、連鎖的に日本語側の解釈や議論の機会を奪っている。横文字の導入は決して悪いことではないが、その無秩序さがまずいのである。

また、訳語の製作は民主的な意義もある。言葉は思考の道具であり、特定の語彙が特定の集団に独占されてしまえば、知識も特定の集団に独占されることになる。訳語は単にわかりやすいだけでなく、社会全体で概念に対する議論を行うための基盤を提供することにもなるわけである。

3) 4,5世紀。歴史区分では奈良時代ごろ。

訳語造語の例

では僭越ではある実際に先人を見習って、考察の上訳語を考えてみよう。今回はエディフィス(édifice)を対象とする。この語はフランス語に由来する、芸術作品のうち特に建造物を指す言葉である。多く大規模など宗教施設や公共施設に対して用いられる。日本では金閣寺とか安田講堂とかが該当するのだろう。こういった建物から感じるものと言えば、「勇壮さ」「壮麗さ」「偉大さ」であろう。これ

に建物を意味する字を付け加えて単語にするのが最も手っ取り早いと思う。また語源から攻めることもできる。この語はラテン語の「aedificium (建物)」からの借用で、さらにこれは「aedis (家、神殿)」と「facere (作る、築く)」という二つの単語が組み合わさった動詞「aedificāre (建物を築く、建設する)」から派生したものである。

さて、これを踏まえて私は「偉築」「典建」⁴⁾などと造語してみた。実際に使ってみるなら次になるだろうか。

Tokyo Station is a modern Japanese edifice and a symbol of the Meiji Restoration.

東京駅は近代日本の偉築にして、文明開化の象徴である

初めて見るエディフィスという単語でも、「偉築」なら分かりやすいと思わないだろうか。

4) 美しさという点では、西洋の「κἀνων (正典、基準)」という考え方に乗っかる手もある。詳細は省くが、古代ギリシャ以来の「美」の「基準」を指す。その意味で美しい建築物すなわち「典型に則った」建築物という感じ。

終わりに

言葉をないがしろにすることは、すなわち文化や思考、ひいては世界をないがしろにすることである。ある言語の話者は、言葉を使うことに対する、生み出すことに対する社会的な責任があると思う。私たちは日本語話者として、遥か古から受け継がれる日本語を、次の世代へと継承していくのだ。舎人親王、後鳥羽上皇、松尾芭蕉、夏目漱石、村上春樹らと、その世界を共にしていると思えば胸が熱くなる。

私たちの周りにも様々な言葉がある。一つ一つと丁寧に向き合うことで時として思いがけない表情を見せてくれるものもある。あなたの周りの横文字について、本当に適切な訳語はないだろうか。ぜひ一歩立ち止まって考えてみてほしい。

引用文献

@kota1021. (2024年1月5日). プログラミング用語の中国語の漢字表記がカッコ良すぎるし初心者に優しいからもっとみんなに知ってほしい.

参照先:qiita.com:https://qiita.com/kota1021/items/c31d7c7d7c6fdc589b9f

@scivola. (2021年9月12日). マイナーな漢語系電算用語. 参照先:qiita.com:https://qiita.com/scivola/items/426c318a68672c461107

KEN. (2023年11月19日). まとめ解説【日本語の歴史と変遷】を分かりやすく簡単に

一各時代の特徴とは一.

参照先:houshouwomamorenakatta.com:https://houshouwomamorenakatta.com/nihongo-hensen/11122/

〈詫間キャンパス 読書体験記〉

最優秀賞

自分にできる第一歩

1年3組 山田 幹太

ニュースで、ロシアのウクライナ侵攻、パレスチナとイスラエルの戦争の話題を聞くたびにたくさんの命が奪われていること知り、「戦争をすぐ終わってほしい」と考えていました。そんなとき、図書館を歩いていると偶然見かけたのが、勁草書房でクリストファー・コッカーの著書「戦争はなくせるか?」でした。

この本を読む前までは、「戦争に関しては、無くなった方がいいに決まっている。」と単純と思っていました。しかし、読んでみると戦争が人間の文化や歴史、さらにはアイデンティティにまで深く関わっていることを語っていて、重みを感じました。そして、特に印象に残ったのが、「戦争は人類の本能ではないが、人間社会が作り出してきたものだ」という考え方です。例えば、学校の歴史の授業で、戦争が起こった原因を「領土の争い」「資源の獲得」「宗教同士の対立」と学びました。それは確かに人間の社会の構造や制度から生まれるものです。しかし本書を読むと、それだけでなく人間は戦争に意味や物語を与えてきたことがわかります。英雄の活躍を称える叙事詩や、国家の独立を支えた戦争の記憶など、戦争は単なる暴力ではなく文化の一部としても扱われ、この指摘には強い衝撃を受けました。なぜなら、私たち自身も気づかぬうちに戦争を物語として消費しているからです。

例えば、映画やゲームの中で描かれる戦争は、時に格好良く、ドラマチックに描かれています。もちろんそれは娯楽として作られたものですが、そうした表現が現実の戦争に対する感覚を鈍らせているのではないかと不安になります。本当の戦争は思っている以上に悲惨で、そこに生きる人々の苦しみがあるのに、物語の形で戦うことに意味を見出してしまうのは危ういことだと気づかされました。しかし同時に、コッカーの議論は「だから戦争は必ず起こる」という諦めでは終わりませんでした。むしろ、戦争をなくすためには「なぜ戦争が人類にとって魅力的に見えるのか」「どうして繰り返されるのか」を理解しなければならない、というメッセージを含んでいるように感じ、私はその部分に強く共感しました。ニュースでは毎日のように戦争の話題を取り上げています。それを見ても「遠い国のこと」と思ってし

まう瞬間があります。しかし、この本を読んでからは「戦争は自分の生活ともつながっている」と感じるようになりました。例えばエネルギー価格の高騰や、国際関係の緊張が私たちの暮らしに影響を与えています。戦争を他人事とせず、自分が生きる社会の問題として考えることが必要なのだと思います。また、「戦争はなくせるか?」という問いそのものの重さも考えさせられました。これまで私は「いつか世界は平和になる」と漠然と信じていました。しかし、本書を読んで、戦争をなくすことは簡単ではなく、むしろ「どうすれば戦争を防げるか」「どうすれば被害を減らせるか」といった現実的な努力をつづけることが大切だと思うようになりました。だから、平和はただ待っていても訪れるものではなく、人間が知恵を絞り、制度を作り、互いに歩み寄って築いていくものだとすることを教えてもらいました。

私はまだ高専生で、国際政治に関わることはできません。それでも、この本を読んで「考えることをやめないこと」が自分にできる第一歩だと感じています。歴史を学ぶことや、ニュースに目を向けることは、遠回りのようでいて平和につながる大切な行為なのだと思います。そしていつか社会に出たときに、自分なりに平和を守る選択ができる人になりたいです。「戦争はなくせるか?」は、単に戦争の悲惨さを語る本ではなく、「なぜ戦争はなくなるのか」「それでもどう向き合うべきか」を考えさせられる本でした。読み終えた今、私はこの問いに明確な答えを持ってはいません。しかし、答えが簡単に出せないからこそ、この問いに向き合い続けようと感じています。

「戦争はなくせるか?」 クリストファー・コッカー

〈詫間キャンパス 小説〉

最優秀賞

「地球」の育て方

1年2組 中本 怜祐

十二月五日、会社帰りに、ある商品が目に入った。最近流行りの「星の卵」という暇つぶしグッズだ。変わりのない毎日に、ちょっとした楽しみができればいいな。そんな気持ちで買ってみた。家に帰って説明書を開く。ある程度の広さの部屋が必要らしい。六畳の部屋を用意した。南側には網戸の外れた窓、家具は何も置いていない。部屋の中央あたりで卵を

割ると、中から黒い球が出てきた。説明書には、これが五分ほどで星になるらしい。三分くらいで色がしっかりついてきた。調べてみると恒星、星座などの種類がある中の「惑星」という種類だった。この種類は常に、照明などの光が当たっていないと生きられない星ということなので、急いで照明をつけた。星は陸地や湖のようなものを帯びて、美しい青色になった。すこし明日が楽しみになった。

十二月六日、仕事から帰ると、家の前で拾った小石と誕生日会で使ったLEDを、壁や天井に設置した。寂しかった部屋に少し色がついたようだ。星の様子を見ると、何かが動いた気がした。目を凝らすと湖の中に生き物のようなものが生まれていた。生き物まで再現できるのかと、今年一番感動した。

十二月七日、陸地に住む生き物が増えてきた。集団で行動するもの、それを狙うもの、様々で面白い。そういえばこの星に名前をつけてなかった。陸地が球体になってるから地球だ。

十二月八日、とうとう空を飛ぶ生き物まで現れた。生命の進化はすごい。話は変わるが、今日、黒穴株式会社の掃除機が届いた。大掃除に大活躍することを願おう。吸引力は今まで見たことないくらい素晴らしい。掃除機の進化はすごい。

十二月九日、嫌な雰囲気というのはなぜか感じ取ることができる。帰宅して真っ先に部屋に入ると床には野球ボールが転がっていた。窓ガラスが割れて、地球は黒ずんだ青色に染まっていた。窓の先には公園があり、この辺の小中学生がよく遊んでいる。ホームランだったんだろうな。しっかり地球にボールが当たり、生き物は全滅。一番恐ろしかったのは窓ガラスが割れたことより、暇つぶしグッズが壊れたことの方が悔しかったことだ。照明を消して寝ることにする。

十二月十日、仕事が休みだったから地球の様子を見ようとしたが、ドアノブに手を触れて、地球はもうないことを思い出した。ドアを開けて今は亡き地球に目をやると薄水色の個体と少しの陸地におおわれた星ができていた。氷だ。電気をつけてやるとだんだん氷が溶け始め、そこには象のような動物や空飛ぶ生き物が何事もなかったかのように生きていた。まだ絶滅していなかったのだ。嬉しさで叫ぼうとしたが、近所迷惑になるのでやめておいた。

十二月十三日、最近仕事が忙しくて日記が書いていなかった。そういえば時々、照明の一部が点滅したりすることがあった。修理してもらった方がいいのだろうか。そういえば、地球でまた新しい動きがあった。猿の大群が象を狩りに行ったり、植物が増

えてきたり、なんだか懐かしい気持ちになる。

十二月十六日、猿の間で文字という概念が生まれたようだ。いままではジェスチャーで会話をしていたが、より細かいことができるようになった。武器が増えたり、火を使ったり、新しいものがどんどん増えていく。

十二月二十日、とうとう言葉を話すようになった。文字だけでも大したものだと思ったが、言葉になると、もう何でもできそう。だが言葉ができたせいで、話せるもの話せないものの扱いという価値とか、そういう差ができてきたように思える。

十二月二十二日、場所や気候によって、生き物の色や大きさなどが違ってくる。猿たちもそのように、肌の色や体のつくりが少しずつ違っている。おとなしいと思っていた猿も、別の群れに会うと好戦的になることがあった。必要のない戦いだと思うが、その声は届くことがない。

十二月二十三日、猿たちが服や、植物を育てて主食にしている。また前々から行っていた土でできた置物作りも発展を続けている。さらに、小さな集団があちこちにできて、敵の物品を狙って争いあうようになった。

十二月二十五日、ある土地で、猿たちが、新しく生まれた子供の猿を見て笑みをこぼしている。そういえば今日はクリスマスだった。地球に気を取られていて忘れていた。ケーキでも買おうか。

十二月二十八日、海で囲まれた島国の一角に木製の乗り物が作られた。何十人でそれに乗り海を越えて、大陸へ移動することに成功していた。次々と便利なものが増えていくのは、見ているこっちがワクワクする。

十二月三十一日、おおきな城を立てて、派手な鎧を着て、火薬の爆発を利用した金属を飛ばして殺しを行う殺人兵器を生み出して、もうさすがに怖くなってきた。知能があることはいいことだが、ありすぎるのがいいことかは場合による。

一月五日、4989年になった。地球はなくなった。昨日、地球では、鉄の乗り物や、爆弾、火、たくさんの武器や言葉で傷つけあう、悲惨な争いが起こった。戦いは土地やお金や食料のためだけに起こり、意味がないと思った僕は地球に思い切って近くにあった石を投げつけた。希望を持って育てたが、結局は殺し合いを始めてしまう。誰のものでもないこの星の上で。また暇になるな、また新しい暇つぶしを探そう。心を入れ替えて、今日もまた、この星で生きたいと思う。日記はここで終わりにしよう。

〈詫間キャンパス エッセイ〉

優 秀 賞 消えた秋を探せ

1 年 2 組 森 想來

〈詫間キャンパス 読書体験記〉

優 秀 賞 「永遠の0」百田尚樹

1 年 3 組 松原 大悟

〈詫間キャンパス 小説〉

優 秀 賞 名前も知らぬこの気持ち

情報工学科 3 年 中田 理貴

〈詫間キャンパス 短歌〉 テーマ「涼」

最優秀賞 透き通る 黄緑色の 青葡萄 楕円の縁を 伝う水滴

1 年 1 組 前川 公平

優 秀 賞 うだる日は お日様砕いて 空にまけ 暗けりゃ暑さも 家に帰るさ

1 年 3 組 大西 翔太

〈詫間キャンパス 俳句〉 テーマ「涼」

最優秀賞 友と食ふ 手につく赤い 溶け水

1 年 1 組 藤本 尚慧

優 秀 賞 翠玉の ^{みなも}水面を滑る 局地風

1 年 3 組 中妻 太希

〈詫間キャンパス 写真・イラスト〉

最優秀賞 沈む空、浮かぶ山(表紙に掲載)

1 年 1 組 古川 真輝

優 秀 賞 終点

1 年 2 組 水井 孔士郎



終点

教員・学生による推薦図書

※推薦図書は図書館で貸出できます。

教員〈高松〉

「受ける」より「与える」ほうが幸いである

▶ 曾野 綾子（著）〈大和書房〉

人は受けている時には、一瞬は満足するが、次の瞬間にはもう不満が残る。もっと多く、もっといいものをもらうことを期待するからだ。

しかし自分が人に与える側に立つ時、ほんの少しでも楽しくなる。相手が喜び、感謝し、幸福になれば、それでこちらはさらに満たされる。

コロナ禍を経て、人間同士のコミュニケーション力がますます減退する現代社会において、本来あるべき人と人との付き合い方を改めて考え直させてくれる一冊です。

一般教育科教員 中瀬 巳紀生

楽器の物理学

▶ N.H. フレッチャー／T.D. ロッシング（著）
岸 憲史／久保田 秀美／吉田 茂（訳）〈丸善出版〉

香川高専では全学生が学ぶ「物理」ですが、皆さんはどのような印象を持っていますか？斜方投射、バネの振動、波の性質など身近にある様々な現象を対象とし、数式を使って現象の本質を説明・解明するのが物理学の醍醐味と言えるでしょう。しかし皆さんが最初に触れる高校物理の範囲では理想化された問題も多く（現実世界には存在しない摩擦のない床や空気抵抗のないボール、質量のない紐なんかが登場しますよね）、親近感があまりわかないかもしれません。本書「楽器の物理学」は様々な楽器の音が鳴る仕組みを「物理学を使って」解説する書籍です。そのカバーする範囲は広く、かなりマイナーな民族楽器まで記載されているほどです。正直なところ、内容はちょっと難しいですが、あなたが演奏している楽器や、好きな曲や音楽で使われている様々な楽器の演奏の背景に物理学があることを知ると、高専の物理の勉強がちょっと楽しくなるかもしれません。

機械工学科教員 木村 祐人

「わたしの旅ブックス」シリーズ『旅が教えてくれた人生と仕事に役立つ100に気づき』

▶ 小林 希（著）〈産業編集センター〉

「旅は好きだけど、それが将来何の役に立つの？」と考える学生さんに最適です。本書は、旅先での体験を「人生と仕事に役立つように」具体的に解説した一冊。学生時代は、感性豊かに多くを吸収できる絶好の旅のチャンスです。異文化での失敗や予想外の出会いこそ、教科書では学べない柔軟な思考や問題解決能力を育てます。就活やキャリアを考える上で、旅の経験がどう「強み」になるのか。そのヒントが詰まっています。

他に、私自身、城好きであり、同シリーズの『城郭研究家の全国ぶらり城めぐり』もお薦めです。

電気情報工学科教員 太良尾 浩生



30日で話せる韓国語会話

▶ 鄭 惠賢（ジョン・ヘヒョン）（著）〈ナツメ社〉

여러분, 안녕하십니까? (皆さん、こんにちは。) この本は、韓国語の初学者向けに書かれており、文法よりも丸暗記して日常会話に使えるフレーズに重点を置いています。一見ヒエログリフのように見えるハングルですが、全て発音記号で書かれています。カタカナルビ付きになっているものの、日本語にはない発音が多々ありますので、付属CDで正しい音を確認する事をお勧めします。単語集も含まれており、中級者以上の方の復習用としても好適です。

機械電子工学科教員 川上 裕介

建築家になりたい君へ

隈 研吾（著）〈河出書房新社〉

1964年の東京オリンピックで国立代々木競技場に衝撃を受け、建築家になる事を夢見た10歳の少年は、2020年にオリンピック会場を手掛ける建築家になった。本書は、一人の少年が色々な状況に置かれながら、そして、色々な環境に触れながら、建築家という夢を実現するストーリーを知る事が出来る1冊です。特に皆さんには、少年の物事に対する取り組みやその姿勢を知り、これからの学生生活に取り入れる事で、皆さん自身が目指す技術者を実現してほしいと思い、本書を紹介します。

建設環境工学科教員 松本 将之

教員〈詫間〉

短歌をよむ

▶ 俵 万智（著）〈岩波新書〉

「この味がいいね」と君が言ったから七月六日はサラダ記念日
俵万智さんが詠んだこの短歌、一度は耳にしたことがあるという方も多いのではないのでしょうか。

この短歌が、もともとは全く異なる姿だったとしたら、みなさんはどう思うのでしょうか？第一歌集のタイトルにもなった「サラダ記念日」も、愛しい人のおかげで特別な1日になった「七月六日」も、すべては必然の上を選び取られた言葉たちなのです（実は、ひらがな表記の「よむ」にも、ある理由が隠されていたり...♪）

何だか少し敷居の高いタイトルですが、未だに和歌の魅力を掴みきれていない私に、「和歌って、ちょっと面白いかも?」と思わせてくれた1冊です。今まで気にも留めなかった道端の石から、少し背伸びをしたその先の景色まで、31音の世界を一緒に覗いてみませんか？

一般教育科 寺尾 穂乃香

まほり

▶ 高田 大介 (著) 〈角川書店〉

とっておき、を図書館だよりを読まれる方に紹介します。クラスの学生におすすめ本と寸評のリストを共有することがありますが「まほり」(高田大介著)は一度も入れたことがありません。だってもったいないから。高田さんの他の本はリストに入れているからそこからたどれるし、それが読める人じゃなきゃね。分厚いし。

大学生が都市伝説の変遷に関するゼミで、同級生の地元にはひっそりと、でもあちこちに貼られている紙の話に興味をひかれて調査を始めると・・・歴史の無残さや排他的集落に直面しますが丁寧に文献を読み解いたり人を頼ったりして一緒に解き明かしていく感じで、読み進められる馬力があります。旧語研の生き残り桐生女史の舌鋒は鋭いんだけど鋭くないのが作者の高田さんらしい。読み飛ばさず丁寧に読みたい。

情報工学科 篠山 学

学生〈高松〉

ニンジャスレイヤー ネオサイタマ炎上1

▶ ブラッドレー・ポンド+フィリップ・N・モーゼズ (著)
わらいなく (著) 〈KADOKAWA/エンターブレイン〉

私が推薦するのは「ニンジャスレイヤー ネオサイタマ炎上1」だ。架空の近未来都市「ネオサイタマ」を舞台に、悪の超人「ニンジャ」とニンジャに家族を殺され、復讐のため自らもニンジャになった男「ニンジャスレイヤー」が戦いを繰り広げるアクション小説だ。この作品の特徴は「忍殺語」と呼ばれる独特の文体が用いられていることである。例えば「ドーモ、〇〇=サン」、「カラテ」、「ワザマエ」といったように、日本語をベースにしながらもどこか奇妙な言語が世界観を構築している。また、退廃的な作中世界で展開される群像劇も魅力の一つである。特に「キックアウト・ザ・ニンジャ・マザーファッカー」というエピソードでは、ニンジャの理不尽な殺戮に翻弄される少年と少女の生き様が強い印象を与えてくれた。奇怪な世界観と力強い群像劇、白熱したバトルが合わさった、現代の忍者活劇。ぜひ手にとって、独特な世界に引き込まれてほしい。

1年2組 (EC) 五郎丸 将生

仮面病棟

▶ 知念 実希人 (著) 〈実業之日本社〉

本格ミステリー×医療サスペンスの代表作。ある日、療養型病院の当直バイトの医師が奇妙なコンビニ強盗に巻き込まれてしまう。次々と事件が展開していく中で明かされていく病院の真実。最後はきちんとどんでん返し!? 思わぬところが事件の伏線。観る者を翻弄の底に落とし、最後に繋がる。現役医師による細部のリアルティがさらに物語を際立たせる。2020年には映画化。とても読みやすいのでぜひ読んでみて...

1年3組 (ME) 友森 太智

お隣の天使様にいつの間にか駄目人間にされていた件

▶ 佐伯さん (著) 〈GA 文庫〉

この本はライトノベルでジャンルは恋愛モノである。主人公の学校で「天使様」と呼ばれている同級生が公園で困っているところを助け、それをきっかけに交流が深まり2人の距離がしだいに変化するという内容である。この本が私が勧めたい理由は、主人公と天使様の絶妙な距離感と筆者によるその表現にある。2人のペースで進む恋愛。恋愛モノにおけるベタ展開が連続しても、他では味わえない距離感を得られます。皆さんにも、この角砂糖すら超えるような2人の甘々恋愛を是非読んで確かめて欲しい。

機械電子工学科2年 石原 拓人

アリアドネの声

▶ 井上 真偽 (著) 〈幻冬舎〉

この本は「見えない、聞こえない、話せない」という三つの障害を抱えた女性が巨大地震に巻き込まれ危険地帯に取り残されてしまうという状況から災害救助用ドローン1台で救うという話である。

さてあなたなら三重苦を抱える女性を遠隔の誘導だけで危険地帯となった地下から救い出すことはできるだろうか? 是非救うための方法を自分で考えてからこの本を読んでほしい。きつと、考え付かないようなスリル満点の救出劇が待っているだろう。前代未聞のミッションに挑む人々の姿と感動のラストを私は多くの人に知ってほしい。

建設環境工学科2年 二宮 和斗

化物語

▶ 西尾 維新 (著) 〈講談社〉

『化物語』は、ちょっと不思議で面白い青春物語です。主人公の阿良々木暦が、怪異という奇妙な出来事に関わる少女たちを助けながら成長していきます。会話のテンポがよく、キャラクターの個性も強くて読んでいて飽きません。怖い話や恋愛、少し笑える場面もあり、いろいろな楽しみ方ができる一冊です。アニメが好きな人や不思議な物語を読みたい人にお勧めです。

機械電子工学科3年 黒田 向陽



利益を出すために重要な24の数式

▶ 野本 明 (著) 〈日本能率協会マネジメントセンター〉

今回私が推薦させていただく本は、野本明氏の『利益を出すために重要な24の数式』である。

経営・マーケティング系の本ではあるものの、作者自身の経験や図を多く交えた分かりやすい内容となっている。その為、バリバリの経営者だけではなく、工学系の高専生や数学に苦手意識を持つ学生等、幅広い読者層にも受け入れやすい内容となっている。

なぜ私が、工業系の高専で経営系の本を推薦するのか。それは、起業云々を問わず、この知識が将来有用であるからだ。技術開発、この点で高専は確かに多くの優れた人材を輩出し、日本における技術発展の一翼を担ってきた。だが、技術は需要が無くては意味が無い。つまり、技術開発の重要さと同様に、技術のユーザーを確保する、これもまた重要である。その点、この本は初学者向けに相応しいものである。高専から社会に出る人も学を重ねる人も、是非一度は手に取っていただく事を切に願っている。

電気情報工学科4年 笠井 悠生樹



100万回生きたねこ

▶ 佐野 洋子 (著) 〈講談社〉

私のおすすめの本は「100万回生きたねこ」です。誰もが一度は耳にしたことのある名作だと思います。

100万回生きたねこは、どの飼主のことも好きになれませんが、のらねことして生きるうちに初めて心から愛するねこ出会います。絵本から少し離れていた今だからこそ、この物語を読んで感じるものがきっとあるはずです。あのころとは違う気持ちで、ねこの生き方に向き合ってみてください。

機械電子工学科5年 美馬 磨人

十字屋敷のピエロ

▶ 東野 圭吾 (著) 〈講談社〉

この作品を読み終えて最初に感じたのは、「怖さ」と「好奇心」が絶妙に絡み合っていたことだ。ピエロという一見おもしろく明るい存在だが、ここまで不気味に描かれるとは思わなかった。

物語が進むにつれて明らかになっていく屋敷の秘密や登場人物たちの過去は、まるでパズルを解いていくような感覚を与えてくれる。特に、屋敷の構造や十字の意味、そしてピエロが現れる場面は、映像が浮かんでくるような表現で、読んでいて何度もゾッとした。また、登場人物たちの人間関係や心理描写も丁寧で、ただのホラーではなく、人間の闇や心の弱さがテーマにあるようにも感じた。犯人が明らかになるシーンでは驚きとともに納得感もあり、「そういうことだったのか」と思わず読み返したくなった。

読み終えた今でも、屋敷の静けさやピエロの笑い声が頭に残っている。単なる恐怖だけではなく、深く考えさせられる作品だった。

通信ネットワーク工学科4年 前岡 来海

学生〈読間〉

カラー図解でわかる 航空管制「超」入門

▶ 藤石 金彌 (著) 一般財団法人 航空交通管制協会 (監修)
(SBクリエイティブ)

みなさんは、飛行機に乗ったことがありますか?実は、飛行機はパイロットだけでは飛ばすことができません。飛行機を安全に飛ばすための、道案内役が必要なのです。その役目を担っているのが、「管制塔」です。管制塔にいる管制官たちは、飛行機の離着陸について指示を出し、他の飛行機と衝突しないように常に監視しています。その管制官が具体的にどのような仕事をしているのか、航空管制とはどのような仕事なのかについて詳細に書かれています。「航空管制について知りたい!」「飛行機に興味がある!」といった方は、ぜひこの本を読んでみてください。普段は見ることのできない航空管制の仕組みについて図や写真を交え詳細に解説されています。

1年2組 水井 孔子郎

ステップファザー・ステップ

▶ 宮部 みゆき (著) 〈講談社〉

中学生の双子の兄弟が暮らす家に、プロの泥棒が屋根から落ちてきた。大怪我を負った泥棒は、双子に看病されることで弱みを握られ、家出中の両親の代わりに父親役を演じることに。かくして始まった奇妙な疑似家族の共同生活。そんな三人を巻き込んで、次々と七つの不思議な事件が起こる。

ユーモアあふれる会話と魅力的な謎が彩る、宮部みゆきの家族小説的要素も兼ね備えたミステリー。笑いあり、涙ありの連作短編集で、読者の高い評価を得てロングセラーとなった一冊である。

血の繋がりを超えた絆と優しさに包まれる、温かな物語が展開する。

情報工学科4年 小原 樫

蟹工船

▶ 小林 多喜二 (著) 〈理論社〉

私は最近読んだプロレタリア文学の代表作「蟹工船」を紹介します。

「蟹工船」は、架空の1920年代のカニを捕まえカニ缶に加工する船の話です。戦争の食料として配るカニ缶を作るという国家の事業は、国家と資本家が結びつき、資本家が利益を優先したために船の中の労働者は最低の環境で働かされることになりました。

その中で一人の男から「せめて一日だけでも休みを」という声が広がっていきました。しかし最初に監督に休みを懇願した男は殴られ罵られ、さらには労働者全体にきついノルマを課されてしまいました。

労働者が団結し、休みを勝ち取るというのは現代では労働組合というものに置き換えることが出来ます。しかし現代と違うことは労働者を守る法律がなく、船の中では監督に誰も逆らえない状況だったということです。次第に船員たちは休みではなく自由を求め始めました。

「蟹工船」は現代の私たちにそれぞれが勇気を出して団結する大切さを教えてくれる本で、退職代行が流行った現代こそ勇気を持ち団結する大切さを知るべきではないでしょうか？

1年1組 大谷 峻祐

あの花が咲く丘で君とまた出会えたら。

▶ 汐見 夏衛 (著) 〈スターツ出版〉

この本は、現代で生きる中学二年生の加納百合が、母親と喧嘩をして家出をし、次に目を覚ますと1945年、70年前の戦時中の日本にタイムスリップするところから物語が始まります。偶然通りかかった佐久間彰に助けられ、彼と過ごしていくうちに百合は次第に彰の誠実さと優しさに惹かれていきます。しかし、彰は特攻隊員で、ほどなく命を懸けて戦地へ飛び立つ運命でした。戦争がどれだけ残酷だったのか。命がどれだけ尊いものだったのか。

この作品は様々なことを教えてくれます。最後まで目が離せない、涙なしには読めないそんな作品でした。特にラストの場面は今までにないぐらい感動して涙が止まりませんでした。時を超えた儚い恋の話を戦争で犠牲になったたくさんの尊い命、戦争の恐ろしさを伝えるこの作品を戦争のない平和な日本に生まれてきた全ての人に読んでほしいと思いました。ぜひ一度読んでみてください。

通信ネットワーク工学科2年 北山 杏莉



教員によるエッセイ

過去の歴史を持つ構造物・今現在の住民を支える構造物・未来を創る構造物

建設環境工学科 松本 将之

オーストラリアのシドニーで市民の為に貢献し、印象深いハーバーブリッジ。アメリカのサンフランシスコで活躍するゴールデンゲートブリッジ。そして、私たちの生活を身近に支えてくれている瀬戸大橋。皆さんは、何を“創造”するだろうか。それはどんな構造物で、何の為に造られた橋なのだろうか。誰の為の構造物なのだろうか。色んな疑問が出て、色んな思いが巡る。橋梁という土木構造物に限った事ではなく、社会、日常に存在する構造物には、必ず一つひとつに歴史的背景や目的が有り、現代社会を支える重要な役割を持ち、そして、快適な未来社会を創り出すといった期待が込められている。「単なる」構造物は、何一つ存在しない。

瀬戸大橋がとてつもなく大きく、非常に忙しい橋だな、そう思ったのは、私が学生旅行で仲間と香川

を訪れた時である。高速道路を多くの乗用車や貨物トラック、観光バスや電車が行き交い、そして、吊り橋を見る人や風景を楽しむ人がいれば、読書をしている人がいる。橋が存在する事で、色んなシーンが実に楽しそうで、観光面からも大きな経済効果をもたらす橋だと感じた事、印象深かった事を非常に鮮明に覚えている。学生時代から土木構造分野に興味があり、図書館へよく通った。構造分野に関連するトピックを調べる事にとりわけ没頭していた。「瀬戸大橋を架けた男」として語り継がれる事となった杉田秀夫という人物がいる。大規模な土木事業は、誰か一人の技術者によって完成されるものではなく、多くの技術者が協力して実現される。杉田氏を動かしていたのは、何としてでも自ら工事の先頭に立ち、世界に類を見ないこの橋の建設を必ずやり遂げようとする強い信念だった。自ずと施工業者や地元市民、関係者が協力するようになり、皆の為に皆で作り上げよう、一人の思いが皆の希望へと変わったのである。1955年の宇高連絡船「紫雲丸」の事を知った時には、心が痛んだ。構造物にまつわる歴史の本を通して、「地域住民の当たり前」を維持する事がいかに難しく、一層重要であるかを知り、考える機会が出来る。構造物に色んな意味、目的、背景、思いが込められている事を学ぶ。

車で渡る時、電車で渡る時、与島で食事をする時、学生時代に訪れた時とは瀬戸大橋への思いが間違いなく違う。瀬戸大橋を見る度に、色んな人々が関与した事に留まらず、そこに熱い思いが有り、皆の希望を背負っている事が思い浮かぶ。まるで瀬戸大橋が踊っているように見えて、住んでいる世界が一段と充実したものになる。

そこで、何か身近な構造物を思い浮かべてみてほしい。現代社会にあるものでも良いし、これから創りたいものでも良い。そして、その構造物について、関連する事をひたすら調べ、あらゆる角度から繋がりを勉強してみてほしい。更に、未来を良くする

為の構造物の有り方について、自身の意見をまとめて、多くの人と議論し、色んな人を納得させてほしい。そこに、構造物のメリットが有れば、デメリットが有る事を知る。学ぶテーマが増えれば、構造物を技術的に良くする可能性が広がり、進んで議論が出来、自身の思いが皆の期待に繋がる。是非、皆さんに学生時代にこの事をやってほしいと思う。これを繰り返す事によって、皆さんには、自身のみならず、多くの人々の「期待に満ち溢れた構造物」を創り、関わって行ってほしい。さあ、何事にも関心を持って、積極的に取り組もう。見える世界が少し変わるかもしれない。

今も昔も漫画を愛読する私が、 物理を教えること

一般教育科(物理) 清水 一紘

～斜面の角度は勝手に変わる?～

私は昔から漫画ばかり読んで育ちまして、いまだに本屋に行くとき漫画棚しか視界に入りません。文字だらけの本を見ると、「急に難易度上げてくるんや」と身構えてしまうタイプです。そんな私が、いま物理を教えているのだから、人生どう転ぶかわからないものです。

さて、物理の授業をしていると、ちょっと面白い現象に出会います。

たとえば斜面の問題ですね。物体がなめらかな斜面を滑り落ちる、という超・定番の問題です。ある日、学生からこんな質問が来しました。

「先生、この斜面の角度って、勝手に変わるんですか?」

確かに、問題によって斜面は急になったり、ゆるやかになったり、我々の都合に合わせて自由自在に姿を変えます。さながら『多機能スロープ』です。もちろん現実世界の斜面はそんな便利機能を搭載していませんが、物理の世界では当たり前のように角度が変わります。

では、なぜこういう質問が出てくるのか。

それは、「文章を読んで状況をイメージする力」がまだ十分に育っていないからです。

ただしこれは、才能の問題ではありません。

私自身、漫画ばかり読んでいた頃は、文章だけの問題文を読んでも頭の中が真っ白で、「なめらかな斜面」と書かれていても、“今日はなめらかな気分なのか?” くらいにしか思えませんでした。

でも、文章に少しずつ触れ続けると、脳内で情景を再生する力が本当に育っていきます。これはまさに『想像力の筋トレ』で、やればやるほど強くなるし、鍛えるほど世界が立体的に見えてきます。

この力がつくと、物理は急に理解しやすくなります。

問題に登場する“とんでもない斜面”も、“摩擦ゼロのつるつる世界”も、“やたら強靱なバネ”も、ちゃんと脳内で映像化でき、式の意味が自然とつながります。

そしてこの「読む力」は、将来必ず役に立ちます。

専門書、説明書、マニュアルなど、世の中には避けて通れない“文字の壁”がたくさんあります。想像力が鍛えられた「読める身体」になっていると、その壁がぐっと越えやすくなるのです。

だから、読書をおすすめしたいのです。……と言うと説教っぽく聞こえますが、そんな立派なスタートでなくて構いません。

漫画でもOK。いや、漫画からでもいいんです。

ほんの少し文章が多めの漫画を読むだけでも、十分『読む筋トレ』になります。

まずは、図書館で「ちょっと気になる一冊」を手にとってみてください。そこから、あなたの想像力の筋トレがゆっくり始まります。

読めるようになると、物理も人生も、ちょっとだけ扱いやすくなりますよ。

図書委員長より

読書・図書館のすすめ

高松キャンパス 図書委員長
機械工学科4年 尾野 彰信

皆さんは図書館に行ったことがありますか？私は授業がある日は必ずといっていいほど図書館に行きます。昼休み、授業が終わったあと、部活が終わってからなど、テスト前は土曜日にも行きます。「放課後は図書館で勉強したりしている。」と私が言うと「偉いな～」みたいな言葉を多くの人が私に言ってくれます。しかし、私が週の殆ど毎日図書館に行くのは私が怠惰な人間だからです。自分の部屋ではゲームをしたり漫画を読んだりで真面目になれないから、少しでも真面目になれる場所へ、と自分の身を動かしているのだけなのです。それに勉強だけではなく動画を見ることもあるし、図書館の漫画や本を読むこと、少し寝ることもあります。ルールを守ってまわりの人に迷惑をかけない限り、好きなように過ごしていいんです。ぜひ皆さん図書館に来てください、とまでは言いません。しかし、学校での居場所の一つになると、3年間放課後図書館にいる人間として提

案させていただきます。

本・読書は楽しむのにハードルが高い娯楽だ、と私は思います。インターネットの動画、音楽、アニメ等は娯楽側が動きます。つまり受動的に楽しむわけです。しかし、読書は自分自身で読み進めない限り物語が動くことはありません。能動的です。そこがやはり大変であると感じるのではないかと思います。しかし、良いところでもあるといえるでしょう。自分のペースで作品を楽しむことができます。映画やアニメではそうは行きません。読み手が読み手のペースで物語を、作品を楽しむ、素晴らしい娯楽の一つだと思います。

図書館の本、漫画、映画、CDそれぞれ一つずつ、四作品おすすめしたいと思います。全作品の魅力も語りたいところですが、作品名と作者名にとどめたいと思います。本：『君のクイズ』著・小川哲。漫画：『風の谷のナウシカ』著者・宮崎駿。映画：『アマデウス』監督・ミロス・フォアマン。脚本・ピーター・シェーファー。CD：『Pop Virus』作・星野源。ベタな作品達と言われればそのとおりです。ですが、すべて素晴らしい作品である、と私は自信を持ってここに書かせていただきます。

図書館利用のすすめ

詫間キャンパス 図書委員長
情報工学科4年 田尾 恭脩

高専の図書館には、一般の図書館には無い様々な特徴があり、在学中に利用しないのは非常にもったいないと思います。まず第一に、専門書の圧倒的な多さです。図書館には約8万6千冊の本があり、そのうち約4割が専門書です。実験やレポートの作成時に、専門書はインターネットよりも確実で、体系的に情報がまとまっています。そのため、効率よく学習を進めることができ、研究の基礎固めや、新しい発想を得る刺激にもなります。

第二に、進学や就職を強力に支える書籍が豊富なことです。資格試験対策本をはじめ、SPI試験や面接対策、さらには自衛隊など特殊な進路向けの問題集もあります。人気の高い無線技術士関連の本は複数冊所蔵されており、試験前の時期でも貸し出ししやすくなっています。

また、図書委員会では、学生が自ら選書に参加できる「ブックハンティング」を実施しています。本を通して自分の考えを発信したり、新たな世界を知ったりする貴重な機会となっています。

ぜひ図書館を積極的に利用し、そこから得られる知識や経験を自分の力に変えてください。本との出会いが、皆さんの学びや日々の生活をより豊かにするきっかけとなることを願っています。

専攻科生より



娯楽としての読書

創造工学専攻2年

北島 秀希

皆さんは、読書に良いイメージを持っていますか？私の経験上、現役高専生の大半は読書があまり好きではないように感じます。実際、最近の中高生全体を見ても、日常的に読書をしている人は少数派ではないでしょうか。

近年、スマホの普及により私たちの周りには娯楽が溢れています。TikTokやYouTubeのショート動画、Netflixのドラマやアニメ、そして手軽なスマホゲーム。これらはどれも刺激的で面白く、高い中毒性があります。「スマホが手放せない」と悩んだ経験は、皆さんにも、そして私にもあります。そんな状況で「読書をしろ」「読書は楽しい」と言われても、全く心に響きません。「そもそも理系の勉強がしたくて高専に来たのに、読書なんて必要なのか」という極論に辿り着くのも無理はないでしょう。

しかし、そこで私が皆さんに提案したいのが、勉強のためではなく「娯楽としての読書」です。国語力を上げるためでも、教養のためでもありません。

映画やスポーツ観戦を楽しむように、純粋なエンターテインメントとして本を手にとってみてほしいのです。

もちろん、普段本を読まない人にとって活字は面倒なものでしょう。分厚い本を見ただけで拒絶反応が出るかもしれません。ですから、きっかけは「最近テレビで見た本」や「表紙の絵が気に入った本」で十分です。そして、一度だけでいいので、その本を最後まで読んでみてください。もしその本があなたに合うものなら、映画やスポーツ観戦の興奮とはまた違った、独特の「読後感」が味わえるはずです。その感覚を知った時、きっとまた次の本を読みたくなるでしょう。

もし、その本が合わなかったり、やっぱり自分は読書に向いていないと感じたりした場合は、そこでやめてしまって構いません。「自分には読書に向いていない」と分かることも、一つの立派な経験だからです。

私が伝えなかったのは、どうか食わず嫌いをせずに、娯楽の一つとして「読書」を一度試してみてください。この文章を読んで少しでも興味が湧いたら、ぜひ学校の図書館に足を運び、面白そうな一冊を探してみてください。

図書館で広がった私の世界

電子情報通信工学専攻2年

図子 結菜

私は、専攻科に入学してからの2年間、図書館でアルバイトをしていました。小さい頃から読書があまり得意ではなく、図書館も本を借りる場所というよりは、勉強をするために利用する場所という印象が強くありました。そのため、自分から積極的に本を探したり、借りたりすることはほとんどありませんでした。そんな私が図書館を頻繁に利用するようになったきっかけは、資格試験の勉強でした。勉強を始めた当初は、インターネットで情報を集めていましたが、図書館で資格関連の本を探してみると、多くの参考書や過去問題集が揃っていることに気づきました。複数年分の資料をまとめて確認できる点は、大変便利だと感じました。資格関連の本は、一般科目に限らず、専門資格やTOEICなどの英語分野まで幅広く揃っています。また、高専の図書館ならではの特徴として、専門分野の書籍が充実している点も大きな魅力だと思います。これは、図書館は、

書店やネット検索では得られない『新しい自分への手がかり』をくれる場所だと感じました。

図書館は、ただ静かに過ごす場所ではなく、知識と出会える空間です。調べたいことがあれば専門書や雑誌から詳しく知ることができ、思いがけない発見につながることもあります。アルバイトを通して、利用者の方から本の場所を尋ねられたり、探し物を一緒に探したりする中で、図書館が人と本、そして人と知識をつなぐ存在であることを実感しました。私自身も、映画を観たことをきっかけに原作小説に興味を持ち、図書館で本をリクエストした経験があります。

今では、図書館は単なる勉強の場ではなく、心を落ち着かせ、自分の世界を広げられる場所だと感じています。静かな環境の中で新しい知識や価値観に触れられることが、図書館の最大の魅力です。図書館での経験を通して、私自身も多くの新しい世界に出会うことができました。

図書館には、人生を豊かにする発見が詰まっています。この魅力を、これから多くの人に伝えていきたいという思いがあります。皆さんも図書館を通して新しい世界に出会ってみてください。

ブックハンティング紹介

●高松キャンパス

高松キャンパス図書館では、宮脇書店総本店（朝日新町）で、恒例のブックハンティングを6月26日（木）に実施しました。

参加した30名の学生は、クラス毎のグループに分かれて選書を行い、理学、工学、技術、プログラミング、語学、進学、資格取得、ビジネス、文学、歴史、趣味、料理など、様々な分野で思わぬ本との出会いがありました。選ばれた98冊の本は図書館のブックハンティングコーナーに展示しています。

皆様ぜひとも図書館にお越しください。きっと新しい発見があります。

※こんな本が選ばれました。

6月26日（全98冊）

- ・マクマリー有機化学(中)第9版
- ・ゲームメカニクス大全 第2版
- ・ビジュアル解説光学入門
- ・高位合成によるFPGA回路設計
- ・知っておきたい Mr.ウェザリン グカラーの使いかた

・改訂新版 ROS 2ではじめよう

次世代ロボットプログラミング

・夢のなかで責任がはじまる

・蘭亭叙 虞世南臨本

・インディーゲーム・サバイバル

ガイド

・ベンチャー・スタートアップ資金

調達教科書

・別れを告げない

・動画でドラムひとり遊び!

・ドラマーが夢中で叩きたくなる

人気曲レシビ[改訂版]

・モルフォ人体デッサン 新装コデックス版

・戦争は女の顔をしていない

・2025年版 1級土木施工第1次検定

徹底図解テキスト&問題集

・獣の里のかくり神 つつく作品集



●詫間キャンパス

詫間キャンパス図書館では11月3日（月・祝日）に宮脇書店（高松市丸亀町）でブックハンティングを実施しました。1年生から3年生までの10名が参加しました。

今回は、専門書・小説・ベストセラー本等の多くの分野に目を向けてブックハンティングをしてもらいました。各人予算と時間を一生懸命使って、36冊の本を選びました。

36冊の本は図書館で受け入れられているので、ぜひ図書館に来て手にとって見てください。タイトルを眺めるだけでも楽しいと思います。



※こんな本が選ばれました。

- ・よくわかる化合物命名法
- ・コンピューターシステムの理論と実装
- ・銀将の奇跡
- ・レーエンデ国物語 月と太陽
- ・地雷グリコ



ビブリオバトル紹介

高松キャンパスでは、「第7回ビブリオバトル」を開催致しました。

当日は、発表者が1人5分間の持ち時間でおすすめ本を紹介し、その後、参加者全員によるディスカッションを行い、和やかな雰囲気の中、紹介本についての魅力を語り合いました。すべての発表終了後、参加者全員による投票の結果、「チャンプ本」を決定しました。

<第7回> フリーテーマ

日 時：令和8年1月15日（木） 参加者：学生・教職員 19名

<発表者と紹介本> 発表順

- ・機械工学科4年 尾野 彰信さん
『風の谷のナウシカ』 宮崎 駿（著）、徳間書店

- ・機械工学科4年 次田 至吹さん

🏆 第7代チャンプ本 『何者』

朝井リョウ（著）、新潮社

・特別参加

機械工学科教員 木村 祐人さん

『ソース焼きそばの謎』

塩崎 省吾（著）、早川書房



図書館からのお知らせ

1. 両キャンパス間の相互貸出もおこなっています。読みたい本が図書館にない時等は気軽にカウンターへ声をかけてください。
2. 本、CD、DVDの購入リクエスト、貸出中の資料の貸出予約も常時受け付けています。

3. 蔵書検索はこちら

読み取れない場合は、

<https://libopac-c.kosen-k.go.jp/webopac41/cattab.do> にアクセスするか、

高専ホームページ→

メニュー「施設案内」→「図書館」→「蔵書検索」をクリックしてください。



一般利用者（保護者）の皆様へ

本校の図書館は、一般の方へも開放しており、貸出（予約）も可能です。理工系図書が中心ですが、香川県郷土資料や教養・実用・娯楽の図書、雑誌も多数取り揃えていますので、是非ご利用ください。

なお、学校行事等で開館日が変更することがありますので、来館される場合は、香川高等専門学校ホームページ（メニュー「施設案内」→「図書館」）に掲載している図書館カレンダー及び図書館利用案内を確認してからお越しください。

図書館閲覧室の開館時間

平日 8:30～20:00

（長期休業中は17:00まで）

土曜日 10:00～16:30

高松：試験期間中のみ開館

詫間：長期休業中以外開館

※詳細は図書館（開館）カレンダーをご確認ください。

※自然災害等により臨時休館する場合があります。